

**おばあちゃん
金メダル取るよ！**





**ぼくの家は、
両親と兄、とみこおばあちゃんの5人家族
それに数匹の猫が暮らしている
中でもぼくは、おばあちゃんが大好き
障がい者のオリンピックで
金メダルを目指している
ぼくの一歩の理解者だ**

実は、ぼくと兄、両親の4人は
みんな耳が不自由な障がい者
ただ一人耳が聞こえるとみこおばあちゃんは、
ぼくのお父さんやぼくたち兄弟を育てるのに
大変な苦勞をしてきた





おばあちゃんは
おじいちゃんと20歳の時に結婚し、
翌年、ぼくのお父さんを産んだんだ
ところが、その半年後におじいちゃんが
急病で死んでしまった
おばあちゃんは楽しい結婚生活から一転、
生きる希望を失ったそうだ
実家に帰ったものの
途方に暮れる日々を送ることに
そんな時、追い打ちを掛けるかのように
お父さんの聴覚障がいのが分かり、
困り果てて身を投げようと何度も考えたみたい

でもおばあちゃんは決めたんだ
「女手一つで子どもを育てよう」と
ただ当時は働きながら子どもを
育てていけるような仕事はなかったみたい
おばあちゃんは泣く泣く、
3歳にもならない子どもを
障がい者専門の学園に預けて、
別々に暮らすことにしたんだ





学園に預かってもらう時に
「最初の1カ月間は面会しない」と、
約束させられてしまったおばあちゃん
幼い子どもが親離れできなくなつては
預かった学園側が困るからだって
でもおばあちゃんは我慢できず、
28日目に会いに行ってしまったみたい
「おばあさんが危篤なので会わせたい」という
うそをついてまで

おばあちゃんが親子で
一緒に生活できるようになったのは
それから9年後
決して豊かな生活はできなかったけれど、
おばあちゃんにとっては
「夢にまでみた親子の生活」だったみたい





子どもだったお父さんにとっても
夢の親子生活だったようだ
貧しくても我慢したんだって
お父さんは高校時代は
バレーボール部の主将を務めるほど
活発な青年に成長
就職した後、同じく耳に障がいがある
ぼくのお母さんと結婚し、
兄とぼくが生まれたんだ

家族は、兄やぼくに聴覚障がいがあることは
ある程度予想していたみたい

おばあちゃんは

「息子の時には働きながらの子育てで
十分に関わってやれなかった。

その分、孫に関わってやりたい」

と考えて、

会社を辞めてぼくに付き添ってくれた

学校に通い出すと、毎日のように

片道1時間かけて送り迎えしてくれ、

学校で一緒に授業も受けてくれた





子供会の集まりや虫取りなど、
よくいっしょに遊びにも行った
「外出するときは
おばあちゃんと一緒がいい」と、
お父さんたちを困らせたことも
いまは大きくなったぼく
おばあちゃんやぼくたちが自立して、
結婚する姿を楽しみにしているみたいだけど、
ぼくはもっとがんばって
世界で活躍する姿を見せたいな



「聴覚・言語障がい」について

聴覚障がいには、まったく聞こえない「ろうあ」と聞こえにくい「難聴」があります。言語障がいには、言葉の理解や適切な表現が困難な「言語機能の障がい」と、言葉の発声だけが困難な「音声機能の障がい」があります。聴覚障がいと言語障がいも重複することもあります。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇適切なコミュニケーション方法を確認
(筆談、口話、手話、代用発声)
- ◇音声以外の情報伝達方法を使う
(ファクス、掲示板など)
- ◇聞き取りにくい場合は、分かったふりをせず内容を確認

あしがき

恥ずかしながら、お孫さんが世界で活躍する陸上選手であることを2回目の取材で知った。苦労したのは「子育て」の方、と聞いて息子さん中心の取材になったためだ。2世代の障がい児に関わったとみこさん。「孫育て」も、普通の人たちにはとてもまねができない苦労が詰まっていたが、明るい口調で「楽しかった」と語ってく

れた。誇れる息子や孫たちに囲まれるいまの幸せな生活が、今までの多くの苦難を忘れさせてくれているのだろう。(あ)